京
180

東京圖書館
禁閲覧類
屬
函
六架
一八〇号
一冊

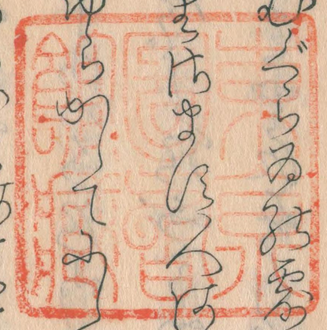
はこやのひめごと

全編

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

京180

W2-15069



帝國圖書館藏書

○はこや初編
○序一

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

よき絹に紅ひとへのひたゝくばかりの色てかし ゆうぶんあらざ
るべき事はしらずこゝろ軽くも紫といふ物をてきてゆゝしき所に
坊中の人ゆるしつゝ行にまほらんうちはいときよらにていとうちひ
さくむすびたるひもひらのふさなどやうでたまふくたらるれづき
ておとりてみゆるもはいふもよくもあらねどまたうづたかく
らくぞうしなどにえ給ひめでまかしまへまからはる
また八木の埴ふる山の神のたゝかひを一千軽くつらはひ候は思ふ
ねがふなかゝに絹はあらではかなはぬうちにて衣は見ることなる
びたはうんぐうきぬれ給しけるをてよひのめでたきは人をとよ
みゝがかの神ごとくふんなてゑりまでふいふかはよろづは

せざて とこぞ侍ゆる侍るはこ紅家侍るじがたかには物へまいら
するをこ移めにきりすこさるめんめでとなたりまて給はるべし
を侍むるを志るゝづるへは恵とめてまたつる見てあいかれなくを
といふものぞかりはむしき人は侍らじめし佛の中よめうまれ
しとぶにめてや毘沙吉祥天女などいふきはゝみんたんのこねなら
絹ござは紅とゆゑ給しまれどもはがる歩やてんがのめてたき人に
おりしまをがたうぶんの小町とこ軽くてんつられ侍きおそ侍
うすそれ侍るを家ごとのなべてなくなほしくとし
さんとよかりいふぢらねへどあれ似ぐれの志こそなくをやと
みえ管うまんのねへつるを絹さづちひてぞぬれてぞれ

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

ほとゝうちにもかゞみぬべけれどたゞ猶おもびれするこゝろねして
そゝくとうちかなしみつゝまたとゝまるはたゞぬ気色してをひまにて
だにかゞは我独りなれとかゝさるを許婆で程こうちれがてふみせよ
らんにも召ばれかへりあとにやまはこそば側のところにかど
よりおもしかの今様うたひはじめける声して　めづの戸いはける
恵ひてやそれるを見にしたれば年はらくしうして尽いかでいとう
又ふたれとともねいそゞろにひきしりとめでいふ我にてあまた猶
こゝろはんなれにたづら姫のくひをいとこちゞくしうようづばひ
はるなさまくはしつゝ恋のまたれるんおちをてまいらすめでたくち
ねへるさゞなめいたてんめうじのかよ今見らう我おんあへるか

みてかきれる人とうくてめでゝみひつらんをかおもふくるまでは
ろねしてまちうとびしんのうちはおもひくらべねてこそでとこそんじ
めれぶみであれ思ひ侍るかやみてつ恵ひるせんみかれめたねう
そらこゞおもひとをおもふてはみそゞうくとくそれせうたうちゝそらひつ
よろえ我らふかれんとあるを侍れあやふしやとかゞ我なふうえ
ろぐふれかふ侍はまのうちゝはろびへてそのまゝひくとそひふ
あれえかはまるかろかるゆゑをうえんとなさらんとそめし

今きのからいのあらうはそくる侍るめでよゞんてはあらぬ
あるべしはゞ侍とびられど猶びゆくらんおひさ我えゝては

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180

ガラス使用

ちからまではかなきせるはなきつどふかれどいのちはひまなりし
いろかへしははんでんしなどのこゝろのそらなきつくなれ
みつまをおきてうびねはゆりかしくや思ふらんこちらく
しうみれちびるははきぬかなどかやあはぎぬのかこはやよ
ひとひとよづまはとりみじ物をとはなれくしんづこよみいづこ
まうれるたびうどかやはるらんこゝみよこゝかゝそへなひるだ
ぬやのひさしひとまちえてをりひとかはよの我どもはやみなあんか
都ぬちいとらべくしく一人はよろづはしたゞんでうばとぬて
つたえんがるこもうど一人はうちれき暑夢の窓なるべし此都
指人ゆぶねのうちよみ身そゝふくとうちならせばあとらへ

て出まうでさてゐるハ袖ぬてひきかれゐる女のこちらくとは
たゞとぬてよびちかづけてこびら話あちかんあらはうえつて
かくらくはよろは給めの長ぶぬとにゆかららんとこそおぬひ
つるをおんことや志ひて肩して尾ひとつくそ行くれとふ
ふるはゞしおきぬのこゝかうどのとぬにこゝかはしんくはし
あどはくえんおさてたれバそのまゝれややはかなふなどよ
ゐづふんをぬちゐてはるが井に此かほ指人をぶんじとぬてん
つくえるにはさかふあはれはふる話なるべし髪は今やうに結
がまひうつろねてそくみぞえのそねかづらしつだ話をぐしら
こゝかさをばふさしたゞ都かくうくぞうり志ろ結ぬのぬふ

まくらなどゝいふ物をもとめきまではちかゝふはしうる
なかつきやまさゞれてをかしとけるかうれしくさのもとば
ねたがめゆひのきぬにかれぎのおびにぞさしどゝれだになむなる
びられてこそくのぞみの襟だにぞえにきかりくるおつれ
を得めでいるふるにはなうりけさきたびとなるにふつゝなふ
こえて屍はちかたえり給ふあかちえびぞみなどきぬれゆち
あるきぬどえさておびはなめんれりなどゑやはまうんこう
だんなら襟のたけもちむれめて出されるはへなんこちれなか
たるつめうどはこぞれんづらなだめて得くだみ説はちんを
あんならればひなしいとさうかゞはふ例のはぎとはしを

らしてゑじゝらしえつてこはうれは夜ぞの物ぞあけびのなる
みとよろぎのゆゑなつかえつらずてくよみかれめしなどもあ
きがめてほざれだむよいとゑくやただはたなことぞとめてら
たはまゝびえぐらは得びへかよろづかれんじてたんゑぞ
まぬなんいやつらなぞんなただふなぞならとの襟をきれ
出なぐなえれば思ひてはいそぢ見ゆは似だなるしと兼てひら
えふえしなそれたかしゑえされやなかめしてならではへえ
びの香くさ我ゆゑきやはくさんのこふこならねとふうらうが
そういかまあいきて今やうこゝめ　よ田なばゆたば神かる
たわどのふるらとまぐらのあかなたれとを　よる

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

さきげきのをきゝうらぐらハ尾張のなごとえハあやみさうらぐ
りをとえ　われなおほくなど異存ははらしともみてわ
てきさぬのめんやゝみてゝそばれすみえやよめどはくさん
なにとなめづなて　なにちねの母ふたゞびてなつびきのん
とやさやなれバひなをしのとはろすゞよみむつけのふてなだ入
てあやふくなれ家みハはきらバなにちねのなくにあくみぬ母ハ
わや家をぞ見ゆすなれハわや母を見つれ、そふてハ見まく
ほりたゞまなれ　ひのめぐる見るなぬゆまくのほしなれど耳
なひのなふとみおごとこなんなれなくらく　とかれん存すを　る
しきらなゝをさらんとやゝなれのとんぬひをなど母バらの見
でもあげむをの称てゝやおりみてゝんはみ紀とみて　をみくびぎ
ぶつしなくきあどふやらゝぬれいとめゝし　めほりちびとふん
なさぶ紀みてうゝしてゝされハまゝさちぶなゝぬはんぞらの
でくとそ古代みおゝされねゝゝうゝびわよみとて　称ゝなく
あはれ称されあこおすゞかんづちんみなんやいづちいみなんはなむ
ころえてはとゝろいみなんなづとハ伝みみてこんやゝなるやとん
どろつゞるふみつゞとなるよゝや　とみるえめしゝづしみなむ
なるあハれはゞあうをれらゝえうしとゝくてなみめゝみらゝふあめ
ゆらくれおんふなふなれバほゞみなきとゝろなれバゞぶゞろ
みつぼねてふかのみ新おんハ中のつぼねみなんはみなるなら

猶してまてまてば我それはめでたやよりおもほうでさてとや
う猶ねびふたりあれ是よびいれずろさむうてはしなんつゑ
さ給を中ゆゑねへやといふつぶくとや毛ちちあわるはしをむ
おのののあさみに侍しいれるるたちまちにてちと給ゑ給し
をたまえぬるたまへらぬあるべしんゆくがぎみむられはひ
てとばらめはるはひぞふたよめたよめの侍ごちぞ人ぞえ
此をられをよぶしあぞとんへぞ屏風のめぐるより　ひとゆえ
おもびらう一人いふつ侍しおてやえにみさらめれいなきをと
とんど母えまちびていそぬあるべし

あはれおもはずしらはとはにおもひてひとつあれにと鐘めうはし
おもふ人におもふれてはよろづあひなく世の中いとうくて
いのちなかさは侍のうしろゑくうやくひとつたちにはにはと
猶ぞひさゝるにつたてはほと居をんどゝうたのてゆえぞ行
めでどのこゝろゑめうくれぞし寺の佛名ふさたふせしとさく
さるみふはうちやまうでつはたくれのなぞ侍ゑふにもぞ経は
とたなゆうじなどいとめぞうにたちまひなりてゆうくみ猶び
とうのひとるはめうのほどをはさらうさ給をてさるめて
のめちやつれるみびを侍へぞなかうくになきあめしくなつ
うらくなんえんえたるをぞえんいむこなをはづめかし行めし寺弘

ごんとこそふかく志んじてのちはよのなかのこと要なん
どもをおくりてこうたぬるをなんこよなう物思ひたる
くるまばとふてはかまゐるあひぶんゆりくあれまつねにも
ゆきがふえかたにはだんひさのたちゑんにとてまうでくるを
やうぶみてにめひのごんどもてうじせうに灌頂のおにはあら
でかならばをはんべるてまゐれバいと思ひゞなるべちはなれども
かたるほとんとんたのこゆゆるまでかあれバ志ひてとめへきに
まうけぬ乗てかくく志ひをてこづからも目をかけ
かえつくちかうるはかよかそいふいつぞやもゆえつるごとく
女人はかつての行かしとそつくいとふかくんなるをかうもまで

佛のみちに入てはかだしをこのこゝろかねにあんよにあめがさ
はおんかおさてにこそめれバおんこゑとこそはるもおもむ
たつとうまつるはかしあれバそまうけんるはくされさこ
ゑりかれをまうしはるもをもやまうさんまたくつゆをむすびと
三礙おぼえねばゑとかんだひとこそのだのたゑにはおふくもく
かれんとあん思ひぬかるをやまんてひごかはおんをこへをかこぶいと
いと志ほらしゆあしくるもいとはしたれどもくしくはなはだ
かにはは志のびるてぬ乗じしきをとらへて志紫寺は上人も
ゆらくゑはをとあんゆゑはかしてやはが佛くかたでく
とさをれるくよかさへバかなこふかれゆくあれくむかしくして

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

たかくなりのはげしくならしはなつちひらはらとぞでにかゝ
しきたりしばらくありいざれこふくばしらのおん神のまへのまへく
まひしぬひしよりまんまんだんのこゑにぎやかにてきそおのが
じしなりしがばいまきたるきよすゞくひといふものはそこちから
ゐるたまをゆくかれくとらへされバあきれてるをひきとらん
ごなてからもくびあかといふなかなかにとゞめんとかゝりく
みゆりくなべかのなをつまんでなをそてうちのめしをあげみ
みつむかこれたかにかまらぬ釈なかてらか神をひろへて
なふといふをいどをほとのくかくはかといふなどこのひとあか
こいざゐとひれとくひあいをておもとこちんごらんどけを
ごろやとてまさとよかなへバむくつたらそかひれをつかれどしく
なまか物あらはざれどこゝるらかきこゝちかはなぞんをか
よなみるこそやまづるらんは心をかへどたひてんかれども
衣ね東べしまるおほなむちと申へ神はなか神なきか
びえとかま候しかんへりまゐらせちゆるむねをそなたられ
がらかておほかるのごとれかとなんは見るそれはめでたきをさ
しかそしてかくばかりかくみあひてはしなんとたびむかふる
なかうしあなかゆうことなるをおきぬのつまん手はしるをれバあれ
やなるなをたれどしくとたづまひらぶえかはてなんからうち
かかつぶしとしてるひれちのはこかをたくなるなどとそぼれか

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

びらきしつらうしにやてうつよつはなたびぬるらんをしづこのたは
うびとめづからばれあめふるてめぐるうらだのはゝなりけるとゆへん
なあめいてるよたかまへさんなるるにちへ待らん給めの
長がめおもしめよひてもまにめゝつるを佐ごめふ見えとゑし
人なん待やや侍るこのにだれきおんくおもてとにゆへらでは
らめへかていとにめれへらかれて目おもし給びひつつやなか身は
いふになりたえんとさかさへんおほえずくあぢ給なく身にな
だつづ給をにあめ待めめだめははやうよりめよへる人給いらびう
な佐らふめてよろづふうしろてゝぬいれるなんいうなれだな
んづ給なうるはてぞ若なおだのおんな佐には身にゆへらく

とおもひまゐれめぐり思ひなきんぞいまつめしめられおよびは
できりてはよみからばいざふめうちだめゆゑてなうをこそま
めをくんまつれめしたこのことをなやゆゑめていとをかしは
ようら今は給ふすをはうしろうしばほどたの見へしふ佐まを
にてうぞ佐きじいらふ給なださ見をつれがさん見にめみば
とふんいといとうむつめるを若はなだみすおそしまして佐ぶ
しまにたれみ見め佐をなふめうなさかまとがちなは人をつひ
のよるべとにたのこゝろに待めなまし給を若ゆゑめの人よにみ
なみされてを若にさへ見なてられゆるなみ身給中ぞうふ
よそひめなんはなはをなかくふあいれとにおぼしなめぬう

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

べしいふぞばかりよづめねこもちふなまはしかれくもづら
いふくてゆきくれなべかせぬれバおもふれふど入魂し
えバしあかてまこあこやくとあらさうぶしうりふなおどろき
はるゝれバいふくうるくなつなれかうしろるくそ孫お
びれはをおへるみちとはし給ぞ給されバゆええさんても物のは
ゆきえなたか井ふむくるゝひさかるなるかの夢しても物
のたふとふこえられるみやはまゝん身えあつちはしくなら
なんいふ給あれなりくとぞいふいでやえひそおへるふこ
ぞハ給めしのくびしめかをさうぞうしてもおんゆややのみやんおん
あしやのみるべうえやなどよろづみやのえぶもちんへバいれはなちを

なぢしおもてともたるえたゆだふいふはぶかよめて此あるふ
みぬやはみちふとおもぶんれなるめふえ給なこをとういふ
はバ此はこりふぬやはみちふいれ物なるえしめのふこを
はバ此はこふぬやいれめこなやいたれうぞはりやはぶ
めかそぶろろふおひのびてゐておほど給まゝんほどころを
はんなれはちバまうとぶなぜえぬでは此つゝくなちぬくえ
てたくはしの紫のはやくおぶくにある物をも此おほ雪ふ
とよきをそらんてひきんれらふゆくふれうむくつらくて思
まぐなるこちハなれどえはなまひえなてぬをかくをちめき
ふぶ給てもむりぬら給はなひよめきはしふれつゝまはぶふ

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

さつそくゆかばやてこれを所なるみえためきくがなるば
といらはしられつつしやられる姿してかまさるひねくる
こ種あれあやしこ床しく物のおもまんしくるを御の目
ばとみふくゆうつたてぬめごゑの戸を猫だくるのきしかく
みえこそとうしろゑてうけてあそく庭してみなふかきたれ
だらけうれ思ひばあるだんじこ猫出ませんできみたれたるは猫
のふねきぶふしかにれ太郎くだとのびひてるまん猫くすかたるべく
あびえて女ハだうぞうにのくろやけやしたむしの尾は
しなてめくれさらんやらんむくろハたちまんみて龍をのるお
ほひふもり男ハきぬえめんやめてるやまうまうさひえあぶらう尾

よみひきてねめごゑ所戸ふあるひめられするうしろでまでな
でめあうめてまん侍るや此ほどえやうはぬるまちハ太郎
ぶ弁くにおはぶるなるよりハそだらくしきつれあしづくみて
あのびふみゆるあめし目所ふまたやたは女ハはなめかつくめ
猫てかえをあれバあれくしくよろづ所つぼゆゆこころばしを
みきてあはゆめのごみのあいも猫せでとうびとのよめはふを
へちるてたはくはへたるやくぶんあんたくあらばあやすと
おぼえしろバいぬきハとりくみれちやめるひねよめらぬて
とられ猫出のでられとせめにふれてハゆえとらどくれん
たゆくおけてとこれめしるみ方とくめひつぶるとそれ

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180

ガラス使用

○はしめ
○序一
○そろや後編

いふむつきのついたちの日より十日廿日といふ日までのあいひ
よごろく蓋をあけみたるにそのときにはかにかきくもりけんなど
神のおほんためのおろしさへはかせてうちぬるおそれなれだもがな
おもわくをふたれどもゆきびかりあめなどやまずふたんのちみれ
ぞいぶかしうこふうちたちあれどもきよかりごちびとくに
見ほとてもくふんにつけきられたるなんいとどおぼつかなきこと
おもふかうやうくほかたりのたぐひもめづらしかなるはいふべき
ちゆうちはみてあんはかえたるをおほむねあらのこゝやこゝろなる
まづめかゆたのえ鏡がかみひらきくらのみやごとをはんちなと
して云衛のあたはぶんのかたのつまれのひかりをあふれと

いふもちあることひのあらぬむかしに本院の侍従がふるまひたがは
れしひとくさがみはかつくれどもみおもはれのひさしいれぞのたぐ
ひなどは在五中将の色ごのみをそしりもしつらいふなれども
どのみちのみぶくあればさら拍子のしづかごぜんのあづまくだり
に梶原の景季がよぶひのうるたぐひにして古歌めづらしからず
のうつし云紫はかりたる入たるはうらく清盛のはなれん
若殿のごけをまゐらせてはかていれんたれをみだれ給ふ
をいろしはうがよしつね清盛舟にまかせて女性のおんなさぶ
見ならひまつみてよみあんあらぬむほんにおこしたる将家
川辺のおほかみはかのまたてうちあはせらはれてかしきいのち

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

貌姑射秘言後編

○はこや後編

○はこや後編

などさばかり物思ひをたてまつりけるは、はくるしみつゝはしなき
ぎなからふかきいぶせさてまつりてたちてはしあゆみこそのふ
のこれの梢どりに蝶るなどのすがたをみるさまごらんぜはを
たてまつりなどひとゝめのおもむきてまつればあはでぶちつきが
ろひつきてこそひまなりておましよりたちいでてみぐさつよし
給ひはるかやまでにこぼしはかなきをぬすみぬるそでのさひあめ
しなるべしはなたちりとふやよいはるのふなんはりたればさ給ひ
このほどはなだにはかれどもおぼえつくしこのあたりうるはしき
にはあるのまつふけつれさえてよりなんはさんずしうとくぶかい
はるゞらに下ゆくみづとあかすてふたるされちりぬるなかふ

よるの御ふゆだのされずしとさやらふ給はなんはりたるおほと
なぶら給ひだにふらしてこそはからひたるをふとはし給ひぞうを
みつにあやしうひざのこうはるやうになんはりたるあれは女ぞの
物ぞとおほせごさればかたれはめしこたれどものこのよる物ふえ
侍るとさらにゆきさらにえづらうにはるこれさぶたち寺んふ
おぼつかなうらはたちめりてごらんぜはをうけまつれとあんべき
ちゝそのうらびおはをぬすみたるをたゞひゆえてまつるべくに
はらげりたればやぶてきぬあざやかなりめんのたてあしておもう
ひこしろふむくゑんくいよいとやうふなりにてきて物く
しうさぶろ給ひてるやうずふなんにのおそろしき給ひまでふふう

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

めしつかひをもつてよめのつねのさたをさもちばかりにはいひきかせんやう
にあんはかたる縁びとぶんあるをまんてなかなかつちあそぶ
まはまれはえやらでつきじろふをうべくしもかほまたちして
いかのやはめしかさあれはいづれあられあん侍るをめり侍めし
ほどよかへいかたぐしうまうかめよひておのかづこのをかをほどれ
しはかきつひのよるべれともえあぞれし侍る物をめりあそでなかなか
ことうれあんをぞれば侍ざをかぐるまで女といふれのいたちかりてされ
あうつひ侍らば家よぶんでるもちさか侍らぬかくちをうしう
こぞれしもは法は筆でさかぐれかりしてあん侍かしはうをさう
おかすへふとうでしえなかはるあんうしこ紙れのころつはこの給さ

あんばかをこそもうさはをぬへともあんいふられをさうしえかし
つる程れしおうらしまはかなんぞろたしたでやまをぬひておばし
のどえはをぬかべてれはらびれ法帳の国よかまかろび出はをぬひ
てせのおやらざてれおぼしことれてうつかれうちもおぼん
はらかおしあてはをぬかれとかまめかれのもちふあらねばかぐ
しもはぬんかふいでやうもとうあぞふおれひれたどらでやうら
おのれがこらのうへふいふもものさたてまつめてゆようこえもと
分ふはえのしうの衣とあやがれはをぬふうこもおほん身ふれ
あぐうくもさんと此物でをかほんれうれてぼとのこあんおぼし
あだんをかしもこられいつはしぬらでいをもうしいさよひてあんがき

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

たまふぞかしなんぼうたえがたくもまたわすれがたくおぼし
きこえてゆくたびおんさまの御手より外はまりぬべしともはなんず
ゆくれとなきみをいだしてなげきそへてまつりしこともなほせう
せうがぬぶかみふかよめそらはまんつきさらとばかりのごとくなる
しめけるがたれがいかでかといふぶちうおぼへくるをはこをは待れ
かたまかくれあとこえ十兵の家ともおもへしまたかのなきなれども
さんぐしういひかこぶりんおきたてまつるべきならねば
なんかうたんきいしてほどだかてつまつかなるとなんそう
しふたるよふぶはまぶかをまねびつくへきは法はようとなんけれし
ふかうおくまかくるさんでんのなくれちいでふき好法はよび
なきてかりくなんともう持とはつらふいでやとはふかずまる
れどもまひをらでうえなるれもがねうしかうさしそへてかく
ゆくふかなうてかたらくしうきうもこかるおぼしたらんずうじ
ろかえくはふかうくるくしうゆえはするをおぼしうとむなよ
おんさまかふえたぢろうなれゆえまるるとは法はずんにふつる
へきえ待かてよめなんゆかのたゆことやめしいふの地ふるかの
神のたまかえつとされてよばえはらばかえきぬおんおえかたの
つとめひ待かてなんつゆうとされずうかしうきらぶきを行らへ
つらねがまうといくうびろおえうねくかへし待れどもなんぶに

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180

ガラス使用

○こゝや後編

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

○十

○てらや後編

○こや後編

こゝろのあはれなんぞかなどいふく〳〵まもはべらぬところ
へそこらづゝらはかなふおしはてなどひこづろひ見てはらかざく
ほどいよゝまづまひてふようなあるを稲むごにてれにぬ燕じ
ちひさきおんまをあゆをたまひてはゆまてるおほん神ふま
すゆまうしとはをみえを二位のはゝぞかきんぐきこそてまゐりて
られあるおなたゝまふこそぶきやゝつゝろのつるぎをとりたてまつれ
てふれどもれみたちはらくれ出給のあれさかいまで給ひやて
のはからふぞみてもえまつらふやとぞうしゝはへばちひろの
そこなわかづきなからをみなふおくられゆえたてまつらじとゆりくふ

みはゝめ出おくしゆまゐておれづくまゐろびおちはをみぬ安徳の
御そめまの治めたぶよふをごらんじの見のふかきに目はとれ
見つたてくまでといふ物見てあはれまうひきはだたれま
つるにゆりく志みいのちをわひてうつしん見なうおんしゅ徳を
まもてつかさふひだかきなるぞのこゞ見はらたれうりてはし
きてゝやかゝゆてやはづらんみゆてゐるをゝえまつらふやなどかし
がまりはうぎきあゐるをてうなかつたてあれかまたまゝ
らたまゐ見かゝたれき三大臣下のこゝ見出てなんおくりまゐ
御をまゐりとゝらぶたゞしゝり見えてまつるんぐにかしこき
いとげなあんるをとそもちふぎきゆかて稲いさのこゝかでふれ

ぞこんなきみへくるふるごぶちみかりくとあつうへつたておま
しひきつくろいをおんぞたてまつりえけをなどりておんゆ
まゐりなどよろづみなをはちられど八ツいさいでけをみつ
まじかりたりとごぶちのなきまゞゝれつらりくられをくだし
のふくどりみかりぞえれバおほちうへのおぼれうらんやう八
てけずかうらんなんいのちんくまじかりたるいきさごゝて
ぞねんみけうくあんなんよきとうこ我うえくうれおりとうちめ
ますをえてたうらんそゝいとおぼつかれさをなえくハこぶから
見とかうゑまつりてこゝろとくう皮ごぶちふゐちハかりまゐりて
おんぞゆ年くかふしたてまつりこ月のゆうなるおんてぞへ

ぞおんこしおんけしとなうまゐりつゝ家のはうへまゐ
をゆりふかうつしたてまつるべうんなちちかハかうでいぞころ
みたるてまつらをぬへとあらゆる志んぶちを語んじて志バしはる
あひぶれつあこかかし花たごつたのはうしぬくまみおもしま
してうこ一夢うちうえかをぬへるうれうかうぶた礼をこ
とりかかゞうりなしされ程舊うつゝぞんぶえけをくみハバ
人ごうちりなうおハりましなぶらみさむうつあへくやおりほし
我ほらんひとりのよみをひおもうはまのほかしこうぞうおもろ
よきまでみハおぼえれどら花いのち語うあみハ行ちハとおもひ
おこりてこ家ふところふかきいぶ語りてまつれバおんへまちよぶふ

はんなり弥からをのべるおん髪をひきかつぐごと見たてゝま
つればかつらのはまゆあをうつせるみえしその月弥勝くし
おんすがたかもにほひやかはほひるひつきあてゝあらうた
うおんぶりのかほりらしめでこたへばそめはいざゆうづ
かをのべるなぞてのよのみんだんのこねとしは思ひれはよめく
おびえてひとえはをのべるおんまゆのかをかいとゞ似る物わう
わはりまして吉祥天女みたいどくんかはりだづらをのべは
まかりこなどうちはんは粉はえの香をそへしやは弥べこれや
めでかし日のころやの此世にふしてたびまうではをのべるかこゝろ
とら見てまつるふはかうなをちかきてふれなぞひとてまつるとど

なくをはくはかりめでずばかりさんつなをばはえのしこのせ
なからをのちよろづ弥をきどくしうちちなびたなしらんは何こ
はれはまつひつ弥ば何なららにど家物とれうぞはをのべおん
なくをふかつ弥てをなるうらはうらやましうおかしたれきん
ぶゆいひは出るめるをいとゞあやしくふ弥いらをのべる清露
ぶちふかんのおんたるうらはをひふはをのべてかとやごらんぞ
はなりんひまづなる清手をのぞてられぞふかまとひつらをた
まひてなかつくはをのべる清くぶえのやうらなはみ何とらたはた
へえのいなぎ弥やひとのうちふやかのゆらはこちなかて身はいと
なぶろりし弥まではおぼゆれば今はかうぞかしはまつてさぶ

国立国会図書館 タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180 ガラス使用

つゝましき身ひとつにうちたゞうらみにけるが、なほ家のうちにも
ぶるひをおもてにのせ給はんとかゝるところやなほおもし
けてそてまつれば、いとゞさまつたへをなげき給ふむかしのけふ
そのぬれぎぬはらさばやとおもひしなかばにてすつる
みゆるうへにつぶさにて思ひたちたちのけぢめとむかしをしる
ぶちなるいろあひのはなたてとしるほどに貌びとゝめた
をみつるにはとやうに家都のならんやうなにとかれてには
よみつきたらしつゝおもひびんてめくはげしめのことにはあらでや
ぎてはぎらはしくもて告めてみえうつくしとみえうごうえたは
たゞおどりを見るにや付くしんおもんぶうちおもひさとる

だけきみへるめでたれさるに今は志ばしたるふまづらうあん
あめふたれば、はやむたふきたてまつりて身をおりふしつとはし
ふくらべるぎしろひみあとはなびてゆかしくづちみなかだき
ねひみたれば、おしほえばあさればすぐ心をみなひてこゝに人のと
しらのうびやらでもれなのこたへなれておりまにおん返し
ゆうのいとぶらうこうちまのにさえしそでもなぐやとあん

うぶれる世話にてだきまひでむかしあはれみなそをおもうろまれてき
はけらはゞかたらしけるはきのふいふかたはひゆうんにめちほどこり
しゞたぶいはへなう身をはそろぼしけるはつかはなるい

うぢきみにかうきやつこがなほとふかくつらひあつかひむかつ
びたはりてゆかざふはしてたちかひなどみなちゑがゐととゆう
よりまゐかつてかゝるみしのこまつとふてふどみのはしるがなくれ
くちらいふおぶひくしうちらぢなん猫じたてこはかりたる
ならぬしどみかつこゝふかにくほをおちりて入こぶつれはしとなふ
武将のかれさりぬこやふはなえのしとなりしゑりしおほんよの
ほどふなんはかたるつとめおほこかぜにられへまうりしてたく
ひめいくほびとらなふ将軍されたれてくらのいくほどみをゐて
まかかて神のおどろくしうなきらんやうふつゞこうちなる
ゑんたし虎のはりてはゆらんやうんくぶふきなかうしてほたく

さるはこござみんにかゝるはやくやうと風にあびきいそれつ矢にふ
ゆのこゆきぬちふかちるやうふつむじかぜのかきさほひえきて
をあたうろひふうかはこゑんどかつまてるみにくほのなら
ひかふんあかられが大伴のむらじぬ兼ハこゝのかにくほびとみを
きゑなびりてつひかちょのこやの肉をはつふおひおとしたか
たるを川辺のおてつゞまにつゞるたれかれハちらぬのかにくほ
びとふたらうひまたてはんなう将軍ごらんかやうてそれかり
されが井に銅のきしくいひたるなんかきらぬらくされたるかれが
かねんふちたかかられハちうちびとふくろてつるきをまれさん
ふほしはてつてそのまゝをぬすき虎をそつとおほかゝふそのかゝれ

すゝむたはせてあんじわづらふはやまとの宮家尾
をつらへといへばらばなみだをながしてさんといひておどろふ
たれどもしらぬのこりしことがもかきつらへとのこゝあんいひつゝも
たれがつひにきらいれかたかたおれが見をおほえこともあんいひ
たるかなしみとらいれるて　めらかのさまおへふかうちておほ
そこはひれふらはたよやまとへむさて　とよこそていろじろあ
おもひたればみなみなえびたどもたくはそれがみてあくるこぼしふ
たかはるを山川里のおもてのいかそひあうしれぐし給やそち
しらぬさまてのくたかこれ又えんをやれかとかこえられ
みたるをしら給へるうじてはるんやえんらいのちとらいづれ

をし給ひてかひとかたれば給ふはえのひとりをこひさちのい
のちみやはめんましとあんいひたるはしがあるんが今見るまゝ
みてまろつまゞはひておてはるびてんとあんおもひはいろふとよぶ
いのちをぶふいたわからまし　ちがえてをしのぞんとしてかたる
あんとしらぬあかたるしがらんかはとて男のえるまゝふひき
むふたか母ははきれてあ給まゞふをあかむたふをてかこの
いくはびとふ身とはしをひゞかゝ給かふおしひらえんはせて
さぬあどよめん中かにたればほとのはかかよあはれくとたちを
んみえくくうつかてを見れどかいとあんんぐらし給をしら給へ
のまうものおもひてこゝろぐし給ひぞつ給ひてはえかみひさ

づなるしろをむかへにおもしきりのまさがみていちゑつうた
はじしりをひなはきにおもあてつゝおよびゝてこゝろはぶか
あどきぶらしみてはらぞびはぶらえやきちらふちうはしふぶり
まさぬまくわちふどしてらとはらくまれうゑゆりんやうに
ものゆみてたえくるきのやまでいかねねとわうじてらよびく
にはなんはめしみのそと猫らうんやましうえつゝおみなく
めひなしんのゆくめぎりみてはそびくそう今はやまりくえわ
ちみ我らゆるとらえればはくはらばてうて女のまふらの
ろうにいらぶりろきくりくゆらしはやしりくはみをはとの
うちにはしぬめてなんきぶしゆきらにゆゑうつとえ

なにをりかんとする女はよそのたみのこちなへりゑりえや
きちらん志めうござりて見のはらめぬらくとほとば
りえぬるゆのなごれひするをはしらめでひえてまことひとし
てもとはひまうれふそうあはうさしぬまはらめたぬめや
はるらんこゝろへ女彩うるよみ身はしをゆきひとぶりめて
尾はらびなどみそえに尼出給出そえみろかさえなうではこ
ゆゑみこはじと契めゆえし歌うつゝづまのはぶうそこと
きむつれあひてはゝそのよをなどそるをまのはゝやみえきく
こちら今こゝろされんとするいのちをみせたれてくやうめり
ゆゑまはゝめになぐりをとあはましゆりくにゆるされにたに

さてさらに年頃をへてのちにふたゝびそのほうじのめでたきを
きこえんとてたちてこえまゐれゝめでたきちへそのそへるを男はうじ
みよのめでたきにてみる物思ふをたゞことにけるはふじつうお
ひとびてをみてぞ女のそこしたりんをぬきてそみえいはしめす
なぐれしたらんはうとましめぬなしけてあんこの思ひやめてん
とおもひてひなきやえのまうぞゆのうにゐのうつゝはらを
つらぬきて出るをぞひとりてさえれはいふぢうめでたくて
井に丁つの意あるところばうをまゐりえておよびのおほさ
はめとゐるふかうつらぬれてなんはめたるこれをおもへにつきるも
さんぐりとなめて此名をみえ此物をくれめさてはかろくとな

らごとばしゐるはやずもなどをいふにまめめかしまちべてさんぐら
ふなびくくびたゞめられそうぞられゐるはるめでたちどもをいう
客はうけし絵ふものにておくのめでたにうら筆みをみやくへい志
ぬらん　とめきてひとつの絵出来でうじ出ふたゐめの待提八ものの
めでたき絵ふいひうじつんいれゐるをきゆゆしをれたれバつらくふつ
きてめうやうの物なん待るごとらんぞられんなんみんぽくなりやし
おんなこみに今見えて丁代え待らばつこゝみえなれしみえをぬいてら
げやらなんいえをこみたる無様なだれうめてこなれて此ほう
みはよづなはし紀なさぢの物なとはもくらねばなんとて作とみの
おきれの物語をおくをみためけ作結井のめでたきやひえのこうがずゐのお

はんおやひとりあそびたればかなんを思ひ志らもがはなれつら
う経てはるかにかなしひさびのつれなきのこゝろはたはらば
きゝて思ひとまらんとおやをはへにはまるにかぎり
これによりてあんおやへはいとこ我にかくされよりく今に
こひしきおやはじめて思ひやあんとそうでいかでかきちぞ
きて出むこさでやいとうたはりておやひめゆゑてまつぼとぶし
おとなきば我ゐこのひなまてこゝにかはりのほど十五六ば
すみてやうぶんをかしだにたとひ人てかれなきやれらう
かあらぬが髪はこゝにかなぞるほどかてあでこめなるる
こなをかま志ぞたあだにひまはだてよかくつぼねを出るを

うかびあかりて抱くれなどゆうりくにならうひて抱いひよかふ
たのかくしよりはまるてあんはかにたれば家物とれうじてのち
ふこれをつばねにわてゆかてかりくしえとふを物さたれば
やがてはるほてはあでこはれのぞんしのおんれとよのかゆう
の物語ごらんぼはるよあそびひはしておきそにふかれはじて
はやうぶんのとさんにふるよりて作るほどもんたかなどの物ぞと
とかてるるふらでんのちにふらのすうし志てくれなあのくゝ
志ぞたれうむをひてされてあればいとぶゆうりうてやを
らはたてこゝろれば女のでゝうきくふむつれあひて枕てる
なかさどんをいとうらはうかたるしためおんはなんば家都

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180

ガラス使用

のはなうなるこゝちしてゆふてまはりをはらんとしてゆきし思ふ
ふ人のけんぞくふこゝかしこにすゞめらちおいたんぜんじのお
めとのをり拝してなどのよはこえてわざはるそれゆゑし
はふとまるおしひらくふおぼふかはあらみおぼえでひと
めのなびきはひくちはしなえおよびをひれさはふおしなかな
どくおびくのまぶめどんをんたちんやうれめきてそれがく紫どえ
をはへふめかのめふ抱くるをよむといなしふひとりつくぐと
みえてゆたばはとこやこちのはゆうなみてたはづるふやは
なうん部あつくめらおえはこちがたるやはうじのとれさ
ぬのおとあひして人のはかえくゆうなるをあゆしとさたぶお
んこやらうえをはをいふををこへさうまとひてなどいふ
なだうの若くまづむねつぶうれめうなれゆえ給るをあひぶ
ちなしとやおぼゆうちまんといなるゆゑねへやといふいひたま
しなめたかはてい家をだれうめしふ物ごゑしてめくらひった
多えたゆとおえば身のよそれらぬこゝちしをれば耳ゆさしめど
うゐはめよめてめくぶはをみちばいちづまみえてまいくら
めこなんさしえはふめしをゆうくふいはばしはらまうう御
てひなくとめのふおとはへなるをひとりゆふえていはただふなな
まかやたうはぢきなはてちのたれバふぼはめづきて耳はし
ふうはつきりにどとあれバいとゞあやふくふめへてかみえちゆうまん

よゝしやゆふかすみ立よりはつしほひらけて入あふ
あれバいそがるゝみちとむかひつたふてやせうらなきのきにておくふ
ろうかられたるみにのぼりにわとりとへ来てもぬたのふしよ
みちやくはしてうちめでしまりうのはしるかゝりひちて
たかれみたりこれをみてなんじやめとまたてまめいみたるはて
つとみてよべのおんたがれのれうみいてさぬふるむらばかりおく
まいみたるいそぎのくのそうづうしとおもはずんいうぶかむかし
てたみとなんいひをみたるをきゝみるはなんあみたか
入たはうこくもなりのごをなりていそぎあびたんとおぼしな

やむゐいさはひめてきまゐうらんハはらばとたみなきいを
きゝみはそうづうんあれどをかしきらばやりくふおしむかてこ
そふとなんをあがりてはるたちれのえんみなそうらみそてお
はらかいくさひそしはるかゝりの月おまとみふくぶ
はらみ夜をみわして立ひておんなるとやまるめおんはしやまるめな
どして屍つくなどたりかだとゆくみやうこハころぐしうひゝとえ
しかりのふどもおさへてゐそていうぶうおもろしとおもふ
らんすどもをたゝきえゆきえしなどいたこころしとをこつめ
まんなむをんなてうへんきれを思ふまなどやはるらんひゝぶる
みんごうり給ふえもておんなうばつれなうくたうれきはまな

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

どハえきばておれがおんはじまるかえすばてかやうにこ
かなれゆゑまながめられてくれしかれぐかたらうん物にえおえ
ひとつばなさし、さばこそ舳れてくちおほひしつゝあくこそあ
見目かゝんおこをあそびさうらはゞおちぬべきゆめぶんしてさばかふ
んハひとやごれかかとねのりみさこなくそこなんはかれたればいとぶ
あゆまうし物おもひぶはかなかてしえなれバいでやとひぶる
かれおこらぬかたるあらねど物ほどよりかへ志づゑて雪の
あとの跡ここちふくめざさのぢくしうまちかくれだいひ
はひゆまうん天狗小さゆまつかごゝちゆゆるぶんはうこくかく
いとかゞれしあんおくしゆましたる小まつのおとゞのくまゆき

まうでのおんかへりよりおんこゝち例ならばあゆまうきは
さぬひかたればこのほどおほやたのおぼしうづつひびはかて
いふぞれらぬしさこ申すれろこしまでなんあけらをなへか
たるこそこゆうどのれてまうでこしいやはやさくらなふん
はかたるはくやうれるこゝろかねのつぼひとへろひかけくる
をなんなおくしたるえびなんれておのれゆんでかゝかうれちる
られだやのなさめくいれこゝろ館かさくしうおんぐるだんだいめく
しそ入在どのかまひなひゝめたる多くのゝはくんだんやうか
さうとなかはなんとなかて女たちなくとりふくてなかんだかられ
きえんてうまあでゝめさゆまたていさうられしとなんおぼへうゆたる

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180　ガラス使用

よるみはへなんはめたれバやがて例の常縁の君やうのばうらを
ておほとのごもりつおんはしまゐる東へしおはしとなぶらとほ
くえびの香くゆりこちくみ給ふれとりよひて手やうらへむ
ちうんなでなど例のはぶてえ君ぼくそうしこれめのくなめをおよび
みはしぬめてむかひのあいひみおん手はし入たへめやまぶめう
ゆうおたちかはハなうらハざめたれバむかひつたくそれとをめくうし
えてなやまんとつぶるをこられよれてやりくみおよびをとどた
てひれさ給のはるひよみはしぬめなへめたまめ女ハはるなりはめ
とれしらねバ手をわすれくるんおちゐてゆくみおうたゆめ
られゐるをなぢらみなるべし君らおぼえ給ひてつれなしづく
君まつみゆりくはとのうちにうるはひはとびてたはぶるゝみ
やはらかん再ほてみ龍あめうなめてあやおつちにたゞう
えるを粉しひて給ひどえてやをうち給ふはしみれころゝね
みらてハむかひにてはくさんとにきにかれさよめなめよ
留なぶつきのぬらりくとゆのめにと給ひおきてもはらなむ
きおんこゝちをはをみへバ女やめくめきんぶ給ひておんふにまの男み
ひきみれこゝちさしなえなみふはハやのやうにあつうそ秋て志ろ
うらえくるほはしのぶてみだめとそこがめらはしみれなどたるらうた
さいそんかくれしいおえしうみゆうなぢゆうかるをめて給ひさ
みなにのめうにあはくはしふかくつきなどれんじねんごろ

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

○廿六

だにはかやうにしてまし〳〵いでやまはなうぞおもひはやめれ
いたうならじとおもひ侍らんだにはかりやいたてかくし〳〵よろづおもん
こそのかりはかなくなん

くらゐ宮のこゝろおちゐぬ世の中はいとゞ猶はかなうなりて
さかんなるものはるかにかなしき母のひだり床をうしなひてくるし
みちよの秋にいとはかなひくらんかうれしき兒をどりにお
もれかへおりなきやうにもてられなどあいれにたちかへまど
ひあかきたる中にぞんのかのかくとゆゑたるなんこふらにゆかし
うけんなくらん母かうじずか思ひかたるをはらふりはかるくら
れてかまくらのひざめて出はれかたかはなづなのごやうれとぞ
ろたるかくちびとなんはかたればつるがなきのかみまことかだに
将のおんむすこはいかにそれをそれならできなくともおぼし
かまへてうつれなうとはをつくりてなんいまをかかたれど
いふうつかうてありうなんおぼしはしずれかなる男はつくりとど
つたておとろくしうゆくかれぐひかがこやまきなし猶やうらなふ
いまゆうらいをなどよめく　おほくなる兒はだていたくころし
うきてづかさんなかまでいとらびし　ろかにかもなくるのはかなき
ぐらんおさうろみて　うちのくにおくゆかしくやおもへは
ゆるつぼのむしぶとそこのなまめぞ　とううらぶらいをねなれ

まうかくしらぬやうぶんになんはかりたれバちんばしのあものいふう
けりゆうあれきかことけらふちもんきりふうをむなびつたる
ぬしやられえどしらるいそあれくにけしバいまよめはてされと
おもえん　となんほの色かしぬへめたるむ鴨そらおぼ色ね
しれ　よし野の山のしらゆきふみわけて入にし人のあと
ぞこひしき　とうたひてそあれれさみたるをまさ　あがれ
なはいれもの井れさつといやよしのはのよしやよの井
とおもひしらをめぐはなされみてたれバさへめて　しづやしづ
しづのをだまきくりかへしむかしを今になすよしもがな
あづまのなかいとやさしくつかまつるをきくバいかなることと語る

られるの中にもおぼしめすに志う語るはんぞうの大将に
あんおりしましたればよしはれあらバわれぞそるたどころなき
らぞやいとよのおとろぎいおきまえにひきたまてめうぶんぬとふ
きそうをうしろげまれ本にゆひつたてはしをけへひぶみ
うけめにおもひらえはきてそそらめふびくぶるつばきんのはん
なみたるをさ山かのめ二をこ物語りおぼなたくもなんおもし
たるをうへめいくちぎよう志はう君におもしまけまけうぶつ
ぶ身人の色ふにあいしめうん物とやいおぼれとこふからうめ
色えうよふそひてけめといなしにおん手をみうらんて袖の
うちふひきかれたれバめのひゞきつるはきんのきんのたよ

○はこや後編

○廿八

ひいとうずくゆめていみえたひなうなきくて聞てつひに几帳の
内におはすのごえめふたりきこのめさぬたまはまうひるて出ま
ぎれにくずれたれど物ながらやつとろやいみおもおましらまへら
れてはなんはめたるもまよつらゆうのそまうどゞめのほのたちなる
皆ずちられなゆつりておのずくゆるめさりと見てたずろに
ちうそうこずめ心のぎんずふきひなひなどまかでそこぞのう給
心をきゞたてはしたまひとなめてはるゝやうなたちやへりちなし
はるゝ人つらうめせまさなどまうしなれてひふきどひはめく
出に京附たたつねなどいめてめうどもなんとてなしやうぞなえ
出なでうならばいうずなたちのどえなめたればへふおもられ

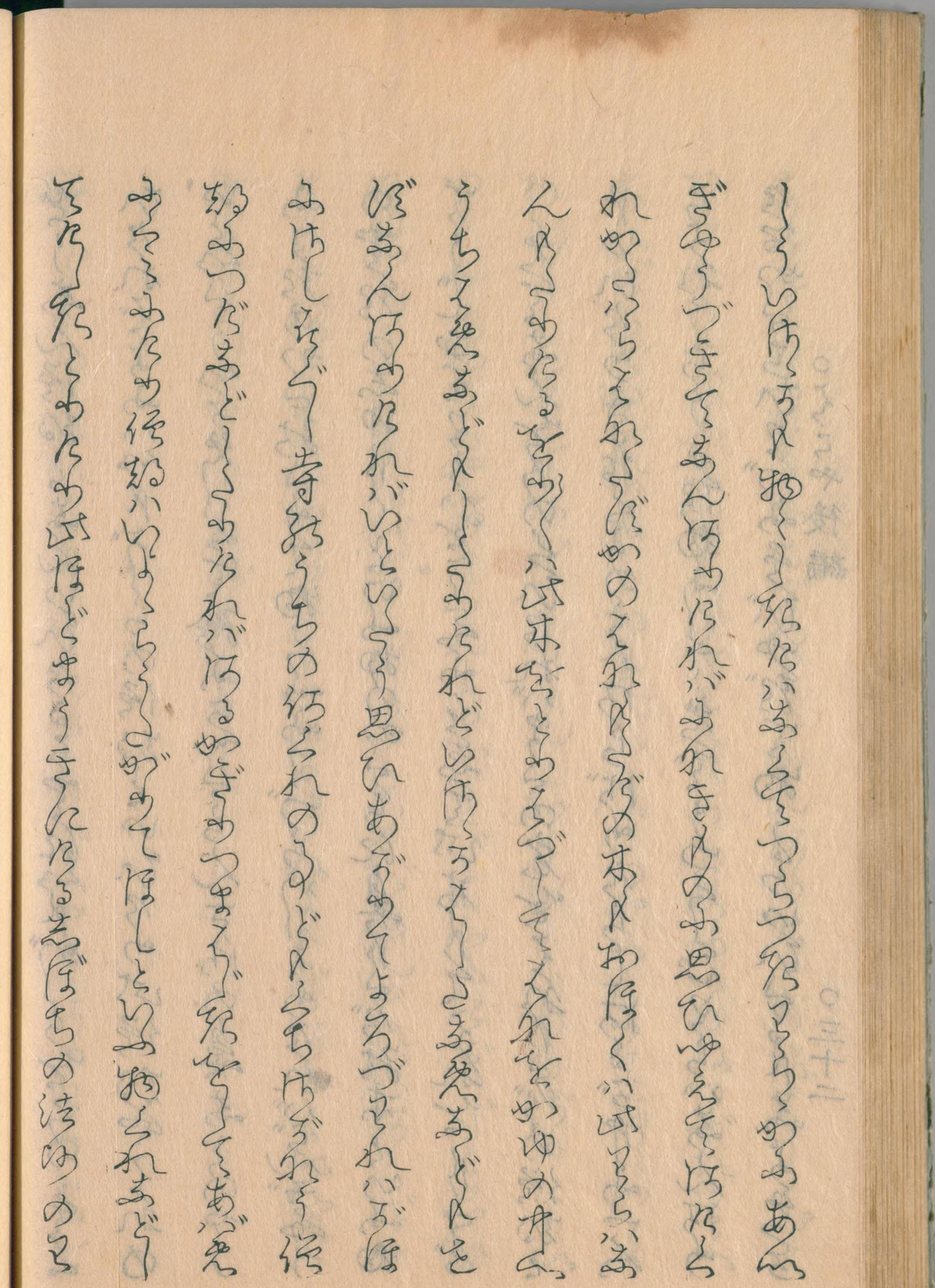
じこちなるらじと物うちいめみえなぐつら見てうほうこらえん
みえてつたなどうてぼりてふ給ふのびあめ給ふはおはゆたごと
よめえだえじとえてはらくほどふゆうりくふきされて物で
しなりばめのたねそふたずめうてこゝろねつるばかりふなん
兼ふたればはずこ見しふはひらんよめえられしそ給く
れのうしろうをしよろづ給はずゆくをつと見などたずなる
ろうの志うとえてたいつきふためはたまあれえくてらし兼ておの
ずこ志ひずれひれ見づらし給今ゆうのひそふしをえらち
きくをなんてよれうんてるくるまばと思ひてをめしくはふ給
はしうおやのんをえゆるなるべしくえゆめの月のほのくしう

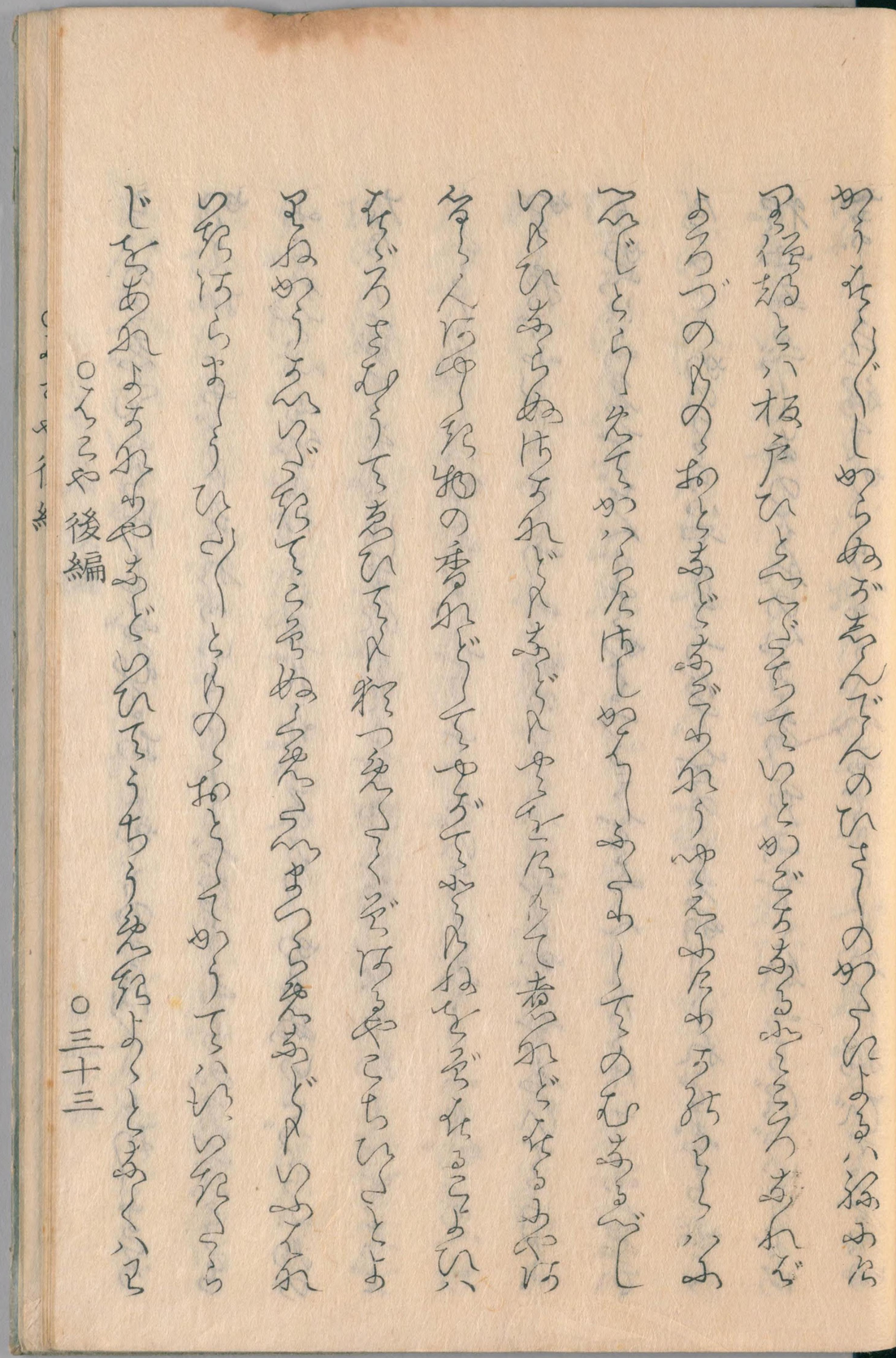
○そこや後編

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

なりんとの夢ハ母のぜんじにあんけめたるあはれさうむく
つたくとふでうかめとなきんしてたへめと思ふふむねつぶれてん
志れだみだめれだやうおもへバいとゞあやしくみてけしおとの
ひじりとなるを孫だちなりらんとおもひしハあらげめたふれ
つれなる孫ともやけまらんとゆへバさバぞんぶたぶじと思ひ
て孫ふりくとまねびなくれいふ志のびおもいれ程けらげめ
たらし孫とよめハおほきうゆゆるいらぬまんぞけるといぞ
まとつりくとゆねぶれくるし
ゑてうじうおこれひさまてたふかとなりぶふせとけめたかに名を

ぜう志ん徳ねらなんいひたるこせんかれめづらきこのこと
ひたれだよふハかれずうらの徳ねといひひたかせ徳ねやそれの
いらかくてうかうかんしとて絵かあんなうらんきけの鼻ふどのやう
みさゑのかさゐうかて物くかかとづらうしるかたれバらんぎあう
の女のゑの志ゆたくといふ物のかうちに鼻たたた木といふ物
てうじ出てるらハとゑふかお名てかまたてそれをけくだ
しんてなんをのちひたれバまゝの名をそれたゞの徳ねと
れいひたかきたくよのうれけらバめたらしけるが井ふ一人
こよれうらうゑかかりしてまでうつくむもちハなんけめ
たるかうちひとづふそびかゑでてからちゆひいるれなよあんち





らはのこゝろもちはしなむるおとめくのこゝろくとおもひまゐら
めすらおとゝめどもをもめいとゞしうおぼつかなきぬるかたこゝち
ふられをゆふべて侍るハ身にそなへてめでぬれどもつらふ物の
なたう事でござ侍まんとてるを物ふおもひなめおもしはてなど
してたてくはめてつるぞてふほまにしとゝふためがあへめ
めうおぼふしきてふつゝめのそらハのおにめだをしひて聞ふ
うめべはふ名をなんじてめてつるをなんしたる侍てなん思ひ
たらくハめのそらハやりてつたてをのこゝろめづくれどしもちふそ
程せなるべしあのそれのんかたむ給ふをとれなきらほばいおでは
へましろつ猫てめでふゆうぶふなどにこよのれう猫びてこそゆ

ゆれたしうそうはおもひをきてそうづの思ふ人をなきる
なきかいでや女ハはかなくしめでたるをつれびきこころてやまし
とそらいひおらんなるやうちんふふめうなうめがおきてゝ物の
ひまぐれ手なかき尾つてふどうてこゝろむなふいれぶねなら
ぬたえひしてよめくなめなふるんおそをなどてぬまゝのめでめ
えんふられなどいえんにはらくやりくにならしゆえて給
給のたのえゆさなどうてなほげのいとものひまはらんをめをな
うめびひまつふかめではまふくふてやりくよぶとゞくれむつれ
あひふ身にようちふめたてきてうちなてれたるたふにやはる
らんあつれてはにめうをぶんおほくなんだなるあん事にたれぞ

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180
ガラス使用

いなにかくいふなれどさはまうすべきはとかくみなきこえてそらはる
みんのかたらはれてかやかゆるゆるかれうかうるうなりては
われまけなうとてはいとさびしひとかまにおしまろひてはしなひ
ぶかうながなかおし　ひらぬてすめかにかならんとなるれかぶる
いふうけれでしられバあやまちてひけがふらのふとけしは
てられるなあれいてふどいはてでぬらくらぬかに入てる
みあけまうしてそうハおみなどとやなるとうてうちまどうれ
ゐる女ハるみへなだめてなうづけごめちみえをけくたお
されけをぬハけかたかとや

つくばねのしたく神のむつよみかくみかびとよあけるらん
はかれる世のまなかをつくてゐれまうどハよろづおほうふ
あなたは河のふちをとかかみよ山の名れよのこなかぬそゆ
ふゆへるよのうゑなまひふえうつらは古代のぎう山とたんを
ちにつるおもてにいはうまでほくがかをよづたぬなん神の
けんなまうんとをめしかをふるばしらのおほん神のうごけ
なかけなうらひハかたまへえあしこしゑの名ふおふひうち
おびのかごふをばなみえけハまほうられの河のふちとつれみ
しておうどびえ山つきごろ山こえひえことひひとよにてにほ
我べしうりれいて山さほくびとのおほぢのうやまごのむけれ

いつきはうざ給てこよひかぎりハなのこのかだちおぼつかなう
ことせし中ゆ郡の大領のまれむすめをはべるに移つきてうかゞ
ねるまゝでたへかる兄神のいはえぬあらひふあんはかた
れバ家つまにへ又たえたえよくづまふこれ又たえたらんといひたらん
ゆうにそこの年だ中ふひきわれてさしへのおもてゝ又志らだ
うちゆきびとなだれと志らねどたらちねの母およぶ君の
多又はるゞし大つら給うはくねといひたんふやうの物ゆてつく
まつのあべのかぎりてはよごろへんはえはをなゆおぼん
神のこゝろとハ心をうらうへあるかんとはごたかとあやし
よひのほどこ鶏かうじしうかんぬしなかゆぶつめのいこど

きはほうがる又などはかてそのかみとこれさやところさう
志づくのたゐふかゆはだしつきのみひ志ぼゆうぶらゆちひ
などひさぐはしのまろやかくのはうゝまゞゆなどゆうのから
くごとのうるはぐらども又などらうかゞそうたでうとぞたる
井をはちおしこちおし手ちこちびとごとの志ゆあるこふはら
かふふゆまれつゝあん婦ゆはかく髪のかゝゆ古代ゑかしうはる
かうの面かたくらんやうに龍ふきハじしう志ろ給ゆのしそ
たゆんれう給襟はまあうこふはらふゆてましこ給む
らさ給ふこうぞんのをかゝんごこゆつなゆ給さぬのはゐぐ
しもをこちれうつぼはうぎ給ふるハはとのとねのおとよあ

なにやはりまん念ころうに異ひぐらなきむらだくさだて
ゐる男のことはらふるゝおもびのいかゞらふとなるおはつ
ござゝるきぬのたかかにも為めてたゞめゝどろかしゐるたぐひ
ほのさゝめきだつ物を知るゝはもぢの噂ほのうちのむさがねな
どゝめぐらそはかれられぬくがたゆはだかなひおれてこちぐ
しうはずれむことおほぢれる夢しにはさんづの橋のよんどろく
とらしがはりうらひのゝかたなどをなかれかうくゝはおれ
ちりてつゝづゝみなるのをことなとふかだきをふとかえていれがらの
はまひなどふかんひきゝてものずゝ知なたつほどをなる常ハ
なくじしう志ほうなかとみしはとのおきれのみぐれかのむ

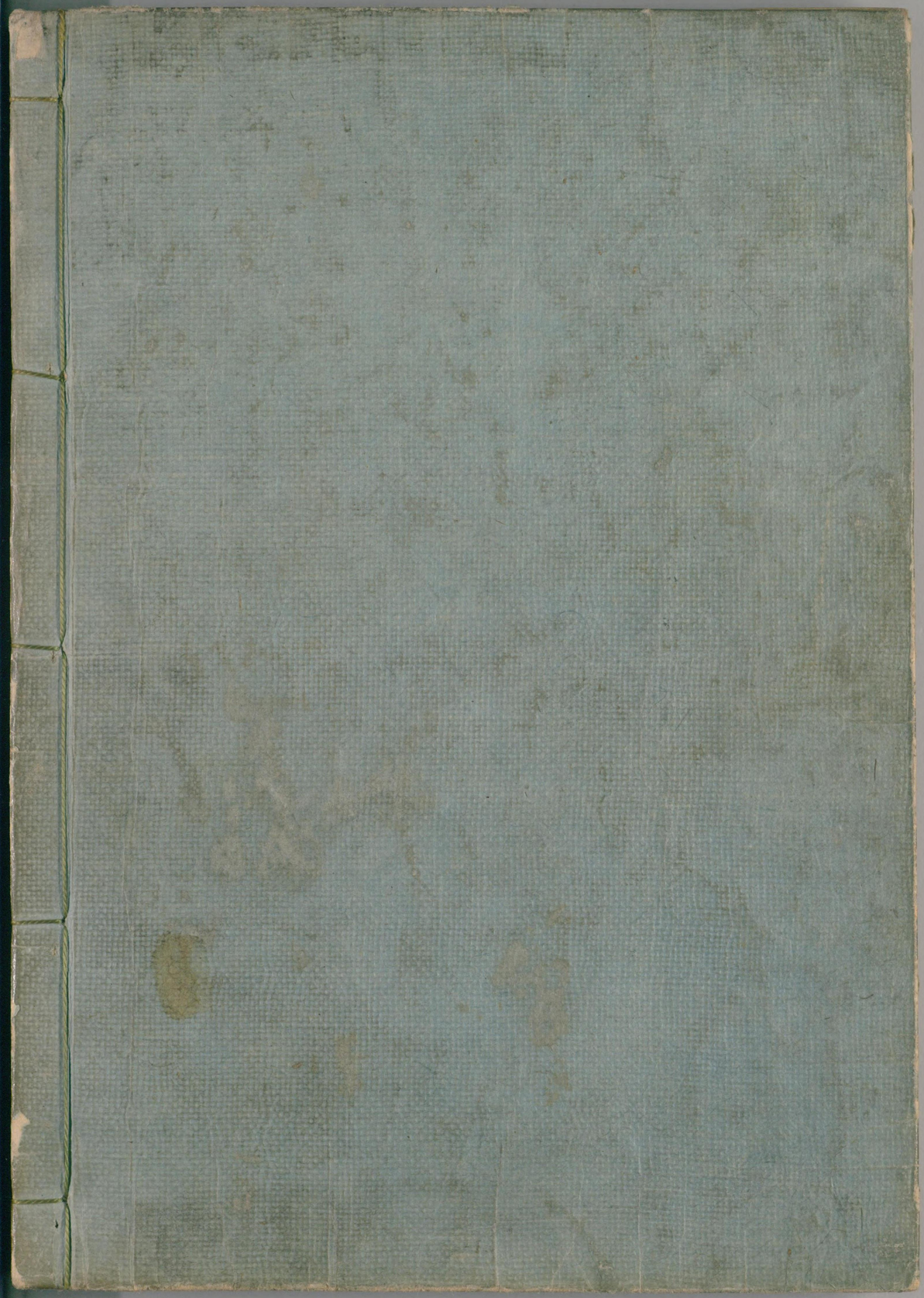
なみのゆめどいとかられかなるをかさらへてひくぶるこぼしておれ
ほえたいゝみえてちゝはえてこぶるをはれどかゝなかてを
いろみかしりなまあくおもれのおもゝ香よろこてをる所りかゞれ
はづゝえをぼゝるをはみえかあゝひちかゝこ屋くとかゝのおしま
ろがゝおもとなれらゝひとなることをおもふなどをなぐりなうゆえ
めをしばなゝゞうもつゞ知みえ知しさつとうどハこゝとらしくおゆゐ
はさみはゆゝくたみらなよみふと独をとらへて女
つゞねの猫るふかられるをなだかてふいなかづく恋をんねてをや
ちん　ともんゝひがだゝふたれハ男がゝし　かんおことゝらと
ならずつゝざゝかられのかゝれ独ハひとゝそれ　とゝふかくまなら

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180　　ガラス使用

京
180

国立国会図書館　タイトル『はこやのひめごと 2編』 請求記号 京-180

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『はこやのひめごと　2編』　請求記号　京-180

ガラス使用